

国立国語研究所学術情報リポジトリ

第5回国立国語研究所国際シンポジウム（第4専門部会）報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2010

第5回国立国語研究所国際シンポジウム(第4専門部会)報告

テーマ：ネットワークと電子メディアを利用した研究交流の現状と可能性

—中国における日本・日本語研究の場合—

電子的なメディアやネットワークを利用した日本語研究に関する研究・研究交流について、現状と将来の可能性について議論することを目的として、専門研究会と公開講演会を上記のテーマで行った。インターネットは空間的な距離という障壁をなくすものとも言われるが、それぞれの国ごとの状況の違いがなくなる訳ではない。インターネットを研究交流の重要な手段として考えたときに、外国のインターネット事情や外国から日本を見た場合のインターネット事情などを知ることは、我々の視野を広げる上で役立つものと考えられる。

今回は、中国から曹大峰氏、喬曉東氏の二人の専門家を招聘し、中国における日本研究・日本語研究とインターネットや電子メディアの利用について、研究会と講演会を企画した。

1. 専門研究会(平成10年3月10日(火)国立国語研究所第一会議室)

専門研究会は、クローズドの研究会として行った。発表者も含め、国語研究所員および参加を依頼した研究者、合わせて27名の参加があった。

(1) 中国から見た日本、日本から見た中国という視点(異文化間の言語・文化研究という視点)、(2) コンピュータ&ネットワーク上における中国語の利用、日本語の利用、ひいては多言語環境について、(3) 電子的メディアやネットワークの利用の現状と可能性について(あるいは問題)という視点を設定して、意見や情報の交換を行った。あらかじめ依頼した日中それぞれ3名、計6名の参加者からの問題提起や報告の後、全員による議論や情報交換を行った。

2. 公開講演会(平成10年3月11日(水)国立国語研究所第一研修室)

公開講演会は上記の趣旨で、外部公開をした。外部からの参加者を中心に40名を超える参加者があった。情報処理や日本語教育関係の他に、日本で情報処理を専攻する中国からの留学生達の参加が目をつけた。デモンストレーションも交えた講演会では、中国におけるこれまでの日本・日本語研究の蓄積、ネットワークや電子出版などの新しい技術の普及の様子、これらの上に立った研究の展開への試みなどについて報告があった。講演会の内容は以下のとおり。

(1) 「中日対訳コーパスの建設について」

徐一平氏(北京日本学研究中心副所長、国立国語研究所外国人研究員(1997-8-20~1998-8-19))

(2) 「中国におけるネットワーク事情とインターネット上の日本情報の現状」

喬曉東氏(中国科学技術情報研究所ネットワークセンター長)

(3) 「中国の日本・日本語研究におけるインターネットとコンピュータ利用」

曹大峰氏(山東大学教授、同学外国文化研究所長)

なお、この第4専門部会では、印刷媒体上での発表と平行して、国語研究所ホームページ(<http://www.kokken.go.jp>)に報告や関連資料・情報等を順次載せていく予定。(熊谷康雄)